ナショナルトレーニングセンター（ＮＴＣ）や国立スポーツ科学センターを包含する「ハイパフォーマンスセンター」の機能を構築する。
こうした体制も活用し，トップアスリートに対するスポーツ医・科学，技術開発，情報などにより，多面的で高度な支援の充実を図る。

［現状と課題］
・ トップアスリートに対するスポーツ医・科学，技術開発，情報などによる多面的で高度な支援は国際的にますます充実する傾向にある。
・ そうした国際的な状況の中で，中央競技団体の強化戦略を支援するためには，「ハイパフォーマンスセンター」の機能を強化し，中長期的観点から競技力強化を支援する基盤整備を進める必要がある。

［具体的施策］
ア ＪＳＣは，国の財源措置も活用しつつ，諸外国のメダル戦略や選手の情報等を収集分析する体制，競技用具の機能向上や技術開発等を行う体制及びアスリートの各種データを一元管理するシステムを整備するなど，「ハイパフォーマンスセンター」の機能を強化することにより，中長期的観点から国際競技力の強化を支える基盤を整備する。
イ 国及びＪＳＣは，強化合宿や競技大会におけるスポーツ医・科学，情報等を活用したトップアスリートへの支援，大規模な国際競技大会におけるトップアスリートやコーチ等の競技直前の準備に必要な機能の提供により，トップアスリートに対して多方面から専門的かつ高度な支援を実施する。
ウ ＪＳＣは，国の財源措置も活用しつつ，ＪＯＣ，ＪＰＣ及び中央競技団体と協働して，国の他の機関や地域スポーツ科学センター，大学等との連携を強化することにより，スポーツ医・科学，情報等を活用したトップアスリートの強化の支援について充実を図る。

④ トップアスリート等のニーズに対応できる拠点の充実
［施策目標］
「ハイパフォーマンスセンター」や競技別の強化拠点をはじめとして，トップアスリート等のニーズに対応できる拠点の充実を進める。これにより，トップアスリートが同一の活動拠点で集中的・継続的にトレーニング・強化活動を行える体制を確立する。

［現状と課題］
・ ＮＴＣは，これまでオリンピック競技及びパラリンピック競技の共同利用化を推進してきた。また，東京都北区西が丘のＮＴＣ（ＮＴＣ中核拠点）では対応が困難な競技はそれぞれの競技の特性を踏まえつつ競技別の拠点の設置を進めてきた。
・ 今後，２０２０年東京大会に向けＮＴＣの利用者数増が予想される中，ＮＴＣの狭隘化が強化活動に支障を及ぼさないようにする必要がある。

［具体的施策］
ア 国は，ＮＴＣ中核拠点の拡充棟を２０２０年東京大会開催の約１年前までに整備することにより，オリンピック競技とパラリンピック競技の共同利用化を実現し，２０２０年東京大会等に向け，競技力強化を支援する。

イ 国は，中央競技団体によるＮＴＣ競技別強化拠点の活用を推進することにより，２０２０年東京大会等に向け，競技力強化を支援する。その際，ＮＴＣ中核拠点のみでは対応が困難な冬季，海洋・水辺系，屋外系の競技等については，従来の拠点設置の考え方にとどまることなく，海外における活動の在り方を含め，あらゆる可能性の中で検討を進める。